

教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL (354)-8283 (代) FAX (359)-0280



教育支援課
マスコットキャラクター
しえん君



ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

孫から学ぶ

青少年育成指導室 植松 佳子

久しぶりに孫を預かった。我が家に着いた早々に、「おやつ食べてないから、食べてもいい?」と聞く。「おや?」と感じた私は「朝ご飯まだなんじゃない?」と「飯食べてからじゃないとおやつは駄目だよ。」と告げる。まだ嘘をつく術を知らない孫は「でまった」と言う顔でしぶしぶ諦める。急いで朝食の準備をして、みんなで食べ始めた。すると、孫が曾祖父に向かって「テレビ消して。ご飯の時にテレビは駄目ですよ。」と訴える。テレビを消した途端、食卓を囲んで孫中心に会話がはずむ。みんなから褒められながら、食器を空っぽにした彼女は、得意満面の笑顔を見せた。そして、約束通り曾祖母から念願のおやつを貰った。

あっという間に今度は昼食の準備。お手伝いする。」と言ってきかない孫。三歳になったばかりの彼女に何ができるのだろうか? 取りあえず玉ねぎの皮をむいてもらう。結構上手だ。ついでにピーマンの種取り、人参の皮むき、卵割りを順に頼んでみる。ピーマンの種取りは初めてのようだったが、後は経験済みなのか、上手に仕事を片付けてしまった。「通りお手伝いが終わると、ありがとうございます。」の私の言葉に満足して曾祖母の元に向かった。

幼い子どもにとって、日常生活そのものが学びの場である。また、日常生活の中で様々な体験を通して自尊心感情をも高めることができる。そこに「生きる力」共に「生きる力」を育む原点がある。幼児期における家庭教育の重要性を改めて感じた。

青少年育成指導室は、四月からこども未来部に移管する。こども未来部では、妊娠から出産、乳幼児、青少年に至るまで、途切れない一貫した総合的施策を行う。核家族化が進み、生活スタイルが多様化する中、青少年健全育成と共にその基盤となる家庭教育の支援を今後も大切にしていく。



研究報告

各研究の詳しい内容は
教育支援課までお問い合わせ
ください。
メールにて資料を送付いたし
ます。



平成24年度、教育支援課で取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり、御協力いただきました先生方及び学校・園、関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が、今後の学校・園での実践に広く活用されることを願います。

第390集

研修・研究グループ 長期研修員 稲田 保昭

問題解決能力を高める算数科学習指導の工夫に関する研究 ～パフォーマンス課題を活用した授業づくり～

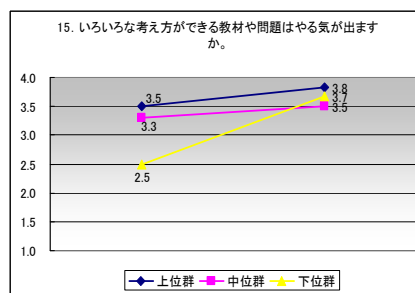
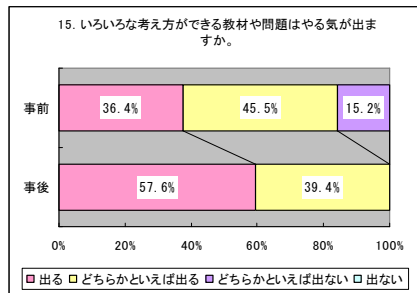


執筆者からの一言

指導の前に評価規準を考えることは、授業づくりや教材研究そのものにつながり、児童に身に付けさせたい力を明確にして、的確な指導を行うことができるようになります。

小学校算数科において、パフォーマンス課題を活用した「逆向き設計」論による問題解決の授業づくりを行い、その中で意欲的な思考を高め、そこから問題解決能力の向上を促すことができるかを検証しました。

考え方がいくつもある課題に取り組み、考えたことを言葉や図で表すといった「考えを記述する力」の育成を図ることにより、意欲的な思考を高めることができました。また、思考力と表現力の向上も見られ、問題解決能力の向上を促したと思われま



【いろいろな考え方ができる教材や課題はやる気が出ますか。(左：事前事後，右：学力3群)】



第391集

四日市市適応指導教室 渡辺由紀 古森ゆかり 市森幸子

不登校児童生徒への理解を深める支援方法に関する一考察 ～若手教員に焦点をあてて～

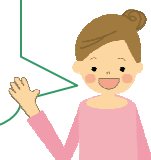
☆明日からできること
～若手の良さをいかして～

- 安心してできる存在となる
- 日頃からまめに声をかける
- 自分の良さを生かしてチーム支援

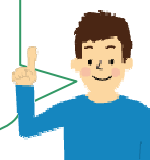
中学校若手教員を対象に行ったアンケート結果から、多くの教員が不登校生徒との関わりがあるにもかかわらず、学習や研修の経験及び機会が不足しており、基本的な支援方法がわからず困っていることが明らかになりました。困り感を少しでも解消するため、不登校支援の初期対応に関する学習会を行いました。若手教員にとって、学習会への参加が、不登校支援を学ぶきっかけとなり、その後の支援の方法に変化が見られました。

<参加した先生方の声>

子どもを見る視野が広がり、声のかけ方など、接し方が変わりました。



連続欠席2日で家庭訪問をし、学校の様子を伝え、安心して登校できる雰囲気をつくりました。



【学習の内容より】

執筆者からの一言

学年の先生や管理職、養護教諭と相談しながら、SCとも連携を図っていくなど、担任の先生が一人で抱え込まずに、発信していくことが大切です。



教育支援課 研修・研究グループから

四日市市教育委員会教育支援課 平成24年度

重点課題研究推進校の紹介

浜田小学校

平成23年度から

学び手である子どもに寄り添い子どもの瞳が輝く授業をしよう！

～「聴き合う つなぐ 学び合う 深まる」授業を取り入れる～

浜田小学校では、寄り添う教育をモットーに子どもの目線に立った授業改革に取り組んできました。それは、子どもたちが自分自身の学力向上にむけて友達の考えを聴き入れ熟考していく姿に表れてきました。わからないことを素直に出し合い、友達の考えを受け入れて、ともに学び合えるようになったことが大きく評価されると自負しております。



中部西小学校

平成23年度から

自分の思いや考えをもち、「学び合う」子どもの育成

子どもの「学び合い」を視点に置き、子どもたちが主体的に学習に取り組み、確かな学力を育むために「学び合う」場を設定した授業実践に取り組んできました。『中部西小版；学び合う子どもの姿の3段階』を作成して、子どもの実態をとらえながら「課題の工夫」や「話し合いの工夫」を行い、進めてきました。そのことにより、子どもたちの学びを具体的・体系的に整理すると共に、子ども理解をより一層深め、一人ひとりの思いや考えを大切に育てることができました。



笹川中学校

平成24年度から

自他共に大切にすることを育む ～ 小グループ学習やICTを活かした学び合いのある授業づくり ～

「基礎学力の定着向上」と「それらを活用した思考力・判断力・表現力等の育成」をねらいとし、ICTを効果的に活用した「学び合い」のある授業づくりについて実践的な研修を進めています。特にPC教室を4人組座席配置としたICT環境の中での「学び合い」のある授業実践により、生徒の学習意欲も向上しています。また、ICT先進校を視察し、そのベンチマーキングなど、校内研修会の充実を図るとともに、校内外への授業公開を通して教職員お互いの指導力向上に取り組んでいます。



大谷台小学校

平成24年度から

論理的思考力を育成する授業の創造 ～ 「思考の場」を設定した授業づくり ～

「論理的思考力を育成する授業の創造」を研究主題とし、国語科における説明的な文章の授業改善を土台として研究を進めています。その方策として、①基礎的・基本的な知識技能の習得、②学習意欲の向上及び学習習慣の確立、③「思考の場」を設定した授業改善の3点を基盤に実践的な研修を進めています。特に「思考の場」の設定を研究の重点とし、教材研究の充実をはじめとして、思考活動を活発に促す単元構想や授業展開、思考を揺さぶる発問の吟味、書く活動の重視、他教科の学習との関連など、さまざまな観点からその有効性を探っています。



★ 平成25年度は、笹川中学校と大谷台小学校の2校にて重点課題研究推進校の研究を進めていただきます。

こんな活動をしています ～通級指導教室～

現在、言語通級指導教室（ことばの教室）は中部西小学校・桜小学校・富田小学校、情緒等通級指導教室（ほっとルーム）は桜小学校・内部東小学校・富田小学校にあります。通級指導教室では、こんな活動をしています。

言語通級指導教室（ことばの教室）

児童が自分の成長を実感し、自分に自信をもてることを願っています。保護者・在籍校担任・通級担当者が情報を共有し、子どもの指導や支援にあたることを大切にしています。



しりとりすごろく



楽しみながら、ことばの音韻に注意を向けたり、いろいろなことばさがしをします。

ピン球吹き



呼吸をコントロールする力をつけるために活用しています。

正しい音はどっち？



ラ行とダ行の音韻を区別する課題です。ピンポンボタンは2者選択の時に使います。

情緒等通級指導教室（ほっとルーム）



ほっとルームでの指導を通して、子どもの内面に安心感や自信を育てたいです。「できる、できない。」ではなく、やろうとする気持ちを大切にしています。

気持ちツリー（個別指導）



気持ちを言葉で表現する力や気持ちの変化に気づいて対処する力を高め、表現する学習を行います。

サーキット（個別指導）



自由に組み立てることで、イメージする力、計画する力を育て、遊びながら体のバランス感覚を養います。

風船バレー（グループ指導）



試合中に、声をかけ合ったり、相談したりするなど、友達とコミュニケーションをとりながら楽しく遊びます。